

めざす子ども像

命や人を大切にする子 夢に向かって進める子
感謝の気持ちを大切にする子 富雄を愛する子

取組目標

各小中学校のコミュニティ・スクールとも連動し、幼稚園からの11年間を見通した学校園と地域の連携の確立を目指す。社会情勢には柔軟に対応しつつコロナ後を見据え、不足気味であった体験、つながりを取り戻す。

【今年度の取組紹介】

めざす子ども像の「富雄を愛する子」を「故郷の歴史、風土に誇りを持ち、語ることのできる子」と具体化し、実施してきた「郷土学習」ですが、今年度は奈良大学の土平博教授をお迎えし、ふるさと発見ウォーク「富雄に残る街道を辿って」～古（いにしえ）から未来へ～を実施することができました。地域の皆さんも多く参加してくださり、会議室で古地図をもとにしたお話を聞いた後、実際に暗峠奈良街道～砂茶屋を歩きました。追分本陣にも立ち寄り、地域の皆さんと共に学ぶ良い機会となりました。

コロナ禍のため実施を見送ってきた「防災学習」は3年ぶりに形を変えて実施することができました。協議会のメンバーだけではなく、各地域の自主防災組織の皆さん、公民館、女性防災クラブ、奈良大学ボランティアグループの皆さんに実行委員として参画していただき、今できる形、必要な学びを、実行委員会を重ねて検討し、富雄子ども防災チャレンジ「地震だ！どうする？」を実施しました。西消防署から起振車にも来てもらい、スタンプラリー形式で楽しく学ぶ事ができました。

また今年度は2年間実施を見送ってきた教員との合同研修もハイブリッド形式で実施しました。奈良教育大学教職大学院准教授の小崎誠二先生をお迎えし、ICTとこれからの学校教育について貴重な学びを得ることができました。



【今年度のまとめ】

本来実施する予定であった取組が、コロナ禍のため中止になったり、内容変更を余儀なくされたりしましたが、今年度は工夫を重ねることで本来の目的に合った形で実施することができました。子どもたちの学びを途切れさせないのはもちろんのこと、地域にとっても学校とのつながり、共に学ぶ事の継続が求められていることを感じる事ができました。

【来年度に向けて】

様々な取組を認知されるようになってきましたが、「地域教育協議会」という組織の認知度にはつながっていないようです。また、地域の回覧での取組広報では十分に周知できていない現状があります。この点から来年度は広報の方法について工夫を重ね、保護者に対する認知度を上げる取組に力を入れたいと考えています。

めざす子ども像

**命や人を大切にする子 夢に向かって進める子
感謝の気持ちを大切にする子 富雄を愛する子**

取組目標

地域と一体になった活動を通し、めざす子ども像に合わせた取組の充実。教職員における地域との協働意識の向上。**【今年度の取組紹介】**

今年度も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、大人数で活動することが制限されましたが、本校区のめざす子ども像育成に向けどのような活動ができるかを、コーディネーターと話し合いを重ね、昨年度の経験を生かしながら今できる方法での取組を工夫することができました。

キャリア教育では、昨年度同様2年生の職場体験は実施できませんでしたが、早くから計画することで多くの講師の先生を招き、色々な職業について生徒たちが学ぶ場を持つことができました。3年生では、実際に企業で人事を担当している方々に来校していただき、面接の受け方や話し方について学ぶ貴重な時間を持つことができました。今年度も教職員と沢山の地域の方々が一堂に会しての熟議の場を持つことは難しかったですが、本校が推進している「学びあい」を取り入れた授業改革について、コーディネーターと教員合同で研究協議を行うなど、地域の方々と共に子どもたちの教育を考える場を持つことができました。また、18年前の事件以降、地域の方々が子どもたちの安全を守るためにどのような思いで継続的な見守りをしてくださってきたのかを直接聞かせていただく機会を持つことができ、生徒だけでなく教員も地域の方の思いを再確認することができました。その他、生徒の表現力向上のため、昨年実施している「富中川柳」「ベルマークプレゼンテーション」の取組に加え「ビブリオバトル」などの自分の思いを表現することのできる機会を設けることができました。また、ボランティア部では、「富より団子」を広く世間に知ってもらうため、ふるさと納税の返礼品や市内全体の給食に取り入れてもらうための活動を進めることができました。

**【今年度のまとめ】**

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、今年度も色々と活動が制限されましたが、感染対策を行いながら、実施形態を工夫することで、積極的に新たな取組を実施することができました。特に今年度は、生徒たちが「自分の考えや思い」を表現できる力の育成に重点を置き、様々な場でプレゼンテーション等の表現活動の機会確保に努めることができました。また、地域の方々の話を聞き、思いに触れる機会を持つことで、普段からの地域の見守りに感謝し、富雄を愛し、誇りに思える気持ちを育てることができました。

【来年度に向けて】

来年度は、新型コロナウイルス感染症も収束に向かい、ここ数年実施できなかった沢山の地域の方々と共に活動することのできる機会が期待できます。本校区のめざす子ども像育成に向けコーディネーターの方々と教員がしっかりと熟議し、それぞれの取組に教員も積極的に参加し、地域と協働できるよう努めていきたいと思っております。また、授業をはじめとした日々の活動の中に、学び合い活動を積極的に取り入れ、生徒が人とのつながりをつくる機会を増やしていきたいと考えています。

めざす子ども像

命や人を大切にする子 夢に向かって進める子 感謝の気持ちを大切にする子 富雄を愛する子

取組目標 ○人と温もりのあるふれあいの中で、挨拶や感謝の思いを大切にする。

○地域人材や保護者ボランティアを活用した体験型学習を実施することで、気づいたり、考えて判断したりする力を高める。

○活動から分かったことや考えたことを地域ボランティアや保護者に伝える機会をもつことで、表現力、発信力、コミュニケーション力を高める。

【今年度の取組紹介】

2年 とびだせ！町のたんけんたい（生活科）

2年生は、自分たちの住んでいる地域のよさを発見する学習を行いました。学校を出発し、富雄川や商店街、駅前ロータリーなどを巡りながら、地域の人に公民館や掲示板について教えてもらったり、地域の方が大切にしているお地藏さんを見せてもらったりして、町にある、みんなが安心してくらせる工夫をたくさん発見できました。活動後、「やさしい人がたくさんいた。」「富雄はいいところだなと思った。」等の感想を発表しました。



掲示板について教えてもらいました

富雄名物 とみあかり（地域交流）

「しずかに 想う 祈る 願う」をテーマにした「とみあかり」が、3年ぶりに富雄を照らしました。会場いっぱいに並んだ灯籠カップから、自分がデザインした灯籠カップをさがし、「ここにあったよ！」と、家族や地域の人に知らせる子どもたちの姿があちこちで見られました。暗くなると、灯籠に描かれたかわいいイラストや「富雄最高！」「コロナに負けずがんばろう！」等のメッセージが浮かび上がり、たくさんの人を笑顔にしました。



富雄の町を静かに照らしました

地域ボランティアの方に感謝の気持ちを表す会（行事）

日頃から登下校の見守りや学習支援のボランティアでお世話になっている地域の方々に、感謝の気持ちを伝えました。学年別に、歌や寸劇などを交え、感謝の気持ちを精一杯伝えることができました。地域の方からは、入場から退場までずっと拍手を送っていただき、「みんなの元気な挨拶のおかげで頑張れます。これからも元気で明るくすごしてください。」という温かい思いを子どもたちに伝えていただきました。



感謝の思いをみんなで表現しました

【今年度のまとめ】

各学年でテーマを設定し、子どもたちの興味関心を大切にしながら、実際に体験して学んだことを発表する活動を進めました。「地域の方との体験学習」についての学校アンケートでは、児童の98%が「やってよかった」、保護者の97%が「有意義だった」という肯定的な回答を得ました。今年度も、感染対策として人数や時間に制限を設けながらの実施となりましたが、全学年で充実した活動を実施することができました。

【来年度に向けて】

これからも多くの地域の方とのあたたかいふれあいを通して、感謝の思いと、目標に向けて努力する力を育てられるよう活動を進めていきます。富雄のすばらしい「ひと」「もの」「自然」「歴史」との出会いやふれあいを大切にして、「富雄を愛する子」を育てていきます。

めざす子ども像

命や人を大切にする子 夢に向かって進める子
感謝の気持ちを大切にする子 富雄を愛する子

取組目標

・ゲストティーチャーを招聘するなど、多様な人との関わりを通して、より良い人間関係を作り、夢をもって自ら学ぼうとする児童を育成する。
・地域の方と共に活動することで、人と出会うことの楽しさ・素晴らしさ、地域の良さを知ると共に、地域に対する誇りと自信、地域を愛する心を育てる。

【今年度の取組紹介】

○学習支援事業（5年生）

たくさんの地域のボランティアの方に、5年生の裁縫学習の支援、ミシン学習の支援をしていただきました。5年生は、家庭科ではじめて針と糸やミシンを使用するにあたって、たくさんの地域の方に教えていただきながら学習を進めることができました。



○体験学習事業（1、2年）

1、2年生は、地域コーディネーターの方の協力により「大型紙芝居」の鑑賞をしました。昨年に引き続いての取組でしたが、感染症予防対策をしっかりといただき、子ども達は畳1畳の大きな紙芝居に吸い込まれるように鑑賞していました。「猿沢池の龍」「イワシの頭も信心から」のお話をいただき、地域のことを知り、興味を持ち、地域を愛する子の育成のきっかけづくりになりました。



【今年度のまとめ】

今年度もコロナウイルス感染状況をふまえての取組になりました。地域コーディネーターの方と学校とで今までの事業を見直しました。同じ形で実施できる取組・形態を工夫してできる取組・新たな取組に仕分けを行いながら地域ボランティアの方等に協力をいただき予定通り実施することができました。特に、図書活動支援事業では、たくさんの地域の図書ボランティアの方が参加してくださり、図書の本のブッカーかけや季節感あふれる掲示物を作成してくださいました。ボランティアの方が図書委員会の児童と一緒に掲示物を作成するなど新しい活動も始めることができました。

【来年度に向けて】

来年度も地域の方のお力を借り、めざす子ども像の実現に向け、子ども達にとって地域の方に親しみを感じ、様々な体験ができる活動を継続していきたいです。新型コロナウイルス感染状況を見極め、今までの取組を考え直し、工夫して実施することにより、取組目標が達成されるよう工夫改善しながら実施していき、地域の方と教職員がつながる場面を拡大していきたいと考えています。

めざす子ども像

命や人を大切にする子**夢に向かって進める子****感謝の気持ちを大切にする子****富雄を愛する子**

取組目標

○様々な事業を通して、地域の人と触れ合い、関わりながら、コミュニケーション力を高めたり、知らないことを知る喜びを味わい、感動したりしながら豊かな心と体を育てる。

○事業内容を方法や回数を見直しながらかつ続し、協働していく。

【今年度の取組紹介】

◎<リズム遊び> “体を動かすって楽しいね”

講師の先生の元気な挨拶で始まります。先生の元気な声につられ子ども達も自然と大きな声が出ます。柔軟体操では全身をほぐしたり、バランス運動をしたりする事で徐々に体幹も鍛えられます。様々な曲に合わせて、跳んだり、踊ったりする事で、みんなと一緒に体を動かす楽しさや心地良さを味わう事ができました。また、少し難しいと思う事にも友達と一緒になら“やってみよう”という意欲が見られるようになりました。



◎<花咲ロード> “綺麗に咲いたらいいね。”

近所のお店の方から花苗の植え方を教えていただき、保護者や地域の方と一緒にしました。子ども達は、花苗を優しくもつ事や土をそっとかけること、直接、花に水をかけないで周りの土にかけることなどを学びました。地域の方から優しく声をかけられたり、認められたりしたことで自信となり今度は、自ら相手に関わろうとしたり、教えてあげたりするなどの優しい姿が見られました。



【今年度のまとめ】

リズム遊びなど様々な体験をする事は、子ども達の生きる力となり“またやってみたい”と意欲につながりました。そして、地域の方や友達と一緒にする中で人と関わる心地よさを感じたり、コミュニケーション力を高めたりすることができました。地域の方と一緒に行動する事は、自分達の地域を知り感謝や思いやりの気持ちを育む事につながります。また、地域の方も「子ども達の成長していくのが見られて嬉しい」と、互換性のあるつながりができています。

【来年度に向けて】

今後も、保護者や地域の方々にも、協力が得られるように啓発活動に努め、子ども達の豊かな心と体を育てていけるよう地域の教育力を園内活動に取り入れていきたいです。

めざす子ども像

命や人を大切にする子 夢に向かって進める子**感謝の気持ちを大切にする子 富雄を愛する子**

取組目標

- 様々な活動行事を通して、地域の方と触れ合い、コミュニケーション能力を高めたり、感動体験を積み重ねられるような取組の充実。
- 幼児の心身の発達を促す直接体験ができるような保育内容の充実。

【今年度の取組紹介】

○「春と秋の花の苗植え」

春と秋の年2回、地域のボランティアの方に来ていただき、花の苗植えを行っています。使う土をボランティアの方がほぐして土の準備をしてくださいます。そして、やわらかくなった土を入れ方や量をお話しながらプランターと一緒に入れます。植え方も教わり楽しく苗植えができました。地域の方との触れ合いを通して苗植えをしたことで、花を大切にすることを実感し、花のお世話をするたびに地域の方の温かい心を感じることができています。



○「英語で遊ぼう」

学期に1回ずつ、講師を招き英語に親しむ機会を持っています。ゲームやリズムを楽しみながら、挨拶や簡単な会話、体の部位や色・数字などの英語にふれていきます。英語に構えるのではなく、音楽を楽しむように講師の先生とやりとりをしています。園の保育だけではできない体験を通して、外国への興味や関心を持つことができます。



【今年度のまとめ】

コーディネーターと相談しながら取組を進め、多くのボランティアやゲストティーチャーのご協力により、保育内容を充実させ、環境改善を行うことができました。コロナ禍で地域での行事も削減の中、地域の方とのふれあいは、とても大切な経験でした。優しいまなざしやぬくもりのある交流は、子ども達の心を育て世界を広げてくれました。

【来年度に向けて】

今年度同様、コーディネーターと連携し、様々な人と触れ合いながら豊かな体験や園内の環境づくり等に、地域の方々の力添えを得ながら取り組んでいきたいと考えています。そして、そんな取組が子どもを育てているということを保護者だけでなく、地域の方に広く知っていただけるように取り組んでいきたいと思えます。